



地域の木工の職人さんたちの指導のもと、木製の椅子づくりに挑戦しました。木材を「切る」「削る」、釘を「打つ」などといったものづくりに不可欠な動作を学ぶとともに、自身で製作した作品に愛着を持つことで、椅子を長く愛用してもらい、「つくる責任」と「つかう責任」の自覚から、ものを大切に扱う心が養われました。



私たちにできること

- 再利用した製品を買う・使うようにする。
- 身の回りのものをすぐに捨てず、できるだけ長く使うようにする。
- 生き物の住みかや自然を破壊するようなことはしない。

受講した子どもたちの声

- SDGsは、5年生の時に学びました。今回改めて学んで、節電するなど、普段の自分の生活を見直そうと思いました。
- 私たちは、垂井の自然にかこまれて暮らしています。今回、垂井の山の木で色えんぴつを作って、自然のおもしろさにワクワクしました。これからも自然を大切にしたいです。
- 初めて自分で釘を打って椅子を作りました。椅子が完成したときはすごくうれしかったので、いつまでも大切に使いたいです。

今回、子どもたちが講座で学んだ内容から「SDGs」に繋がる発見がいくつもあり、理解を深めることができたのではないかと思います。

「SDGs」を身近に感じる人、そうでない人も、普段の生活で何気なく行っていることが「SDGs」に繋がっているかもしれません。身近なところから、ぜひ実践してみよう。

生木を使った色鉛筆づくり



垂井町の森林に親しんでもらうため、岩手地区の山で収集した生木を材料として、手作りの色鉛筆づくりを、NPO法人グリーンウッドワークの協力を得て実施しました。

親子で協力しながら生木の中心に穴をあけるなど、自然のもので作る楽しさや魅力を体感し、身近な自然とのふれあいを通じて、垂井町の森林に興味を持つきっかけとなりました。この講座を通じて「森林を知る」ことが、わたしたちの周りにある自然環境への気配りや、森林の保護や整備の活動へつながると考えています。



自分ごととして考える

「SDGs」という言葉を聞いて、「難しい」というイメージを抱いたり、「自分には関係ない」、「目標を達成できるのか」と考える人もいるかもしれません。

「SDGs」は、世界を変えるための壮大な目標で、その実現には、世界が力を合わせる必要があります。目標を達成する取組みには、日常生活で簡単に取入れられるものもあります。

例えば、世界の環境問題や生態系について知る。オンラインサービスを活用する。食事を残さずに食べるなど、ソファで寝たままで、家においてもできることもあります。こうした小さな行動を多くの人が取り組む・実践することで、最終的には目標を達成することにつながります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



特集

夏休み中の「SDGs」

SDGsを知ろう！
Vol.2

今夏もコロナ感染症の影響で、地域の行事などが縮小・中止される中で、子ども達にとっては、さまざまな「体感」ができる夏休み。

この夏休み期間中に開催された「子ども講座」にフォーカス（焦点）し、普段なかなか気づかない私たちの生活の中の身近な「SDGs」への関わりを紹介します。

SDGsとでんき



でんきの科学館による学習プログラムを用いて、日常生活の中で「自分たちが電気に何ん自由なく生活ができているのか」「発電方法にはどんなものがあるのか」「もしも電気のない世界だったら」などについて考えたあと、実際に豆電球を手動で光らせる体験をして、電気のある生活のありがたみや、発電の大変さを学びました。

私たちにできること

- 不要なコンセントは抜くなど、節電に心がける。
- 近くに出かけるときは、自転車や徒歩、公共交通機関を利用する。
- 電気の消費や、二酸化炭素を排出しない製品を使用する。
- リサイクル可能な製品を使用し、ごみを出さないようにする。

ソーラーパネルで車を走らせよう！



県地球温暖化防止活動推進センターの協力のもと、地球温暖化について学び、どうして温暖化が進むのか、どうすれば温暖化を止められるのかを考えました。

温暖化を進めないための方法の一つとして、ソーラーパネルを用いたミニソーラーカーを自分たちで作って、走らせることで温暖化に対する関心と、温暖化に対してどのように取り組んでいくべきかを学びました。